

表彰式

2021年10月23日、立命館大学創思館カンファレンスルームにて表彰式を開催しました。入賞者には、表彰状と、各協賛企業様から副賞（最優秀賞：防災グッズ・地球儀・今治タオル他、優秀賞：防災グッズ・防水機能付デジタルカメラ・住宅用火災警報器他、入選：ウレタン畳他、佳作：地図帳・防災ポーチ、瞬足他）および参加賞（作品のマグネットや飲料水他）が贈呈されました。続いて、入賞者からは作品のテーマや工夫した点などを発表いただき、審査委員から講評を行いました。表彰式は、入賞者、ご家族、協賛企業様、本学関係者が参加し、和やかな雰囲気の中で終えることができました。



賞状授与



副賞授与



記念撮影

応募者の声

- 参加者の生徒さんから、以下のようなコメントがありました。
- 現地へ足を運んで自分の目で確認することによって、子供目線の新たな気づきがあったり、またマップ作成に積極的に取り組めるようになった。
- ハザードマップをみながらどの様に避難場所まで行けばよいか、どの道をつかえば浸水しないかを確認することができてよかった。
- 親子で危険な場所を共通認識する事ができて良かった。
- 親も積極的になることで子供も意欲を持ってくれた。工夫して良く頑張ったと思う。
- 子供と一緒に見て回ること、自分とは違う視点で物事を見るこ

- とができる。マップ作りは、複数の視点で作成するほうが、良いアイデア、良い解決につながると思った。
- 作成にあたり、住民の方へインタビューをしました。集会所にあった資料や過去の写真、また実際に住居にあったスズメ蜂の巣を見せてもらったりと、貴重な体験をすることが出来ました。実際に困っている事、危険な土地の低い所なども歩いてみて、見るだけでは分からないことが多くあると思いました。上記のように、実際に現場を歩きながら安全安心マップを作成することの有意義さを示しています。

出張授業

「安全安心マップの作り方を教えて欲しい」「文化遺産・防災に関するお話を聞いて欲しい」という学校や団体からの声にお応えするために、歴史都市防災研究所では出張授業を実施しています。2021年は岡山県立岡山操山中学校からのご依頼を受け、11月1日に当研究所の教員・事務局職員が中学生4人からリモートインタビューを受けました。今回のインタビューは、岡山県立岡山操山中学校の総合的な学習の時間「未来航海プロジェクト」の活動の一環で企画され、コロナ禍のためZoomを使ったリモートインタビューの形式で行われました。当日は、事前に中学生が研究所に送って来ていた5つの質問（文化財建築物の災害への備え、避難経路の周知と活用、住民参加の防災マップ作成活動の普及、災害時要援護者のための防災マップ作成、豊岡市出石地区における流木を伴う洪水氾濫を念頭に置いた施設配置）について中学生へ1つ1つお答えするとともに、その答えについて中学生がさらに疑問に思ったことについてもお答えする形式で進めました。1時間以上におよぶインタビューとなりましたが、4人の中学生の皆さんは熱心に話を聞いたり質問を投げかけてくれ、文化遺産と防災について考える有意義な時間となりました。

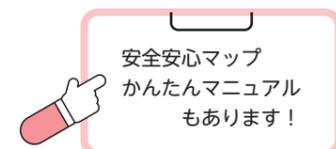


リモートインタビューの様子



中学生からの質問へ返答している様子

お気軽にご相談・お問い合わせください。



立命館大学 歴史都市防災研究所 事務局
〒603-8341 京都市北区小松原北町58番地
TEL: 075-467-8801 / FAX: 075-467-8825
E-mail アドレス: rekibou@st.ritsumei.ac.jp
コンテスト特集ページ: <https://r-dmuch.jp/project/mapcontest/>
開館日/月～金 9時30分～17時00分 [土・日・祝および休館日除く]



豪華な賞品ももらえるよ!!

地図を作って夏休みの宿題にしてもいいね!

立命館大学 歴史都市防災研究所では、小学生を対象として地域の安全安心への関心を深めてもらうことを目的に、2007年から「地域の安全安心マップコンテスト」を毎年開催しています。この事業は、小学生、保護者、ご家族、地域住民、教員など子供と大人と一緒に地域を調べ、マップを作成しながら地域の安全安心を考えてもらえるよう、大学の社会貢献活動の一環として取り組んでおります。今年も多くの方々に支えられて15回目を迎えることができました。この場を借りて心より御礼申し上げます。なお、本紙において第15回の事業内容をご報告させていただきます。皆様の日頃のご活動や今後のマップ作りの一助となれば幸いです。

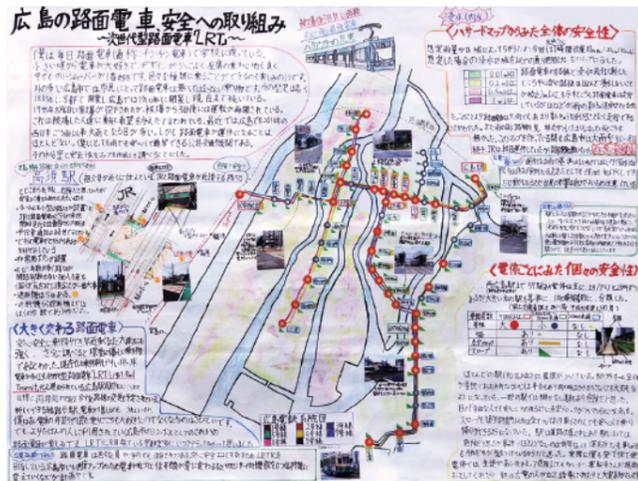
「第15回みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト」概要

2021年8月17日から9月29日までの募集期間に、全国から30点（個人26点、グループ4点）の応募があり、総勢37名の小学生に参加いただきました。応募地域は、京都府をはじめ、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、茨城県、大阪府、兵庫県、広島県、徳島県、大分県、と全国各地に及びました。魅力的な作品が多く、審査にはかなりの時間を要しましたが、10名の審査委員による厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、入選3点、佳作5点の入賞作品10点を選出いたしました。また今年も、入賞作品のうち7作品を全国児童生徒徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土交通省国土地理院）主催の「第25回全国児童生徒徒地図優秀作品展」へ推薦し、その作品集に掲載されました。

主 催：立命館大学 歴史都市防災研究所
協 賛：株式会社パスコ、フレタリース株式会社、株式会社帝国書院、株式会社ネスト・ジャパン、NPO法人災害ボランティアステーション日本、マツモラ産業株式会社、株式会社宝水、セコム株式会社、株式会社柴橋商会、能美防災株式会社、奥尻島観光協会、株式会社サンオート、ワエストロ株式会社、株式会社アイ・イー・ジェー、やまと産業株式会社、アキレス株式会社、株式会社コバック、株式会社宮田運輸（順不同）
後 援：国土地理院、京都新聞、KBS京都、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、一般社団法人人文地理学会、立命館地理学会、京都府警察、一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構（順不同）

最優秀賞

4年生・広島県広島市



広島路面電車、安全への取り組み

応募者のコメント

僕は毎日路面電車です。最近広島大雨が増え、洪水警報等が増えましたが、路面電車が運休になることはほとんどありません。その謎を解くために、浸水ハザードマップと重ねて調べ、路線が浸水の少ない場所を通っていることがわかりました。また、危険な電停・踏切の特徴も調べてみると、様々な安全への取り組みがされていること、環境にも優しいLRT化が進んでいることもわかりました。

講評

LRTの災害安全性に関するマップ。運営会社への聞き取りもなされており、丁寧な作業が感じ取れる。情報量は多いが、タイトルをつけたり、レイアウトに工夫があり、見やすく構成されている模範的な作品。

全国児童生徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土地理院）主催「第25回全国児童生徒地図優秀作品展」にて、「奨励賞」を受賞しました。

優秀賞

3年生・宮城県仙台市



仙台市上杉地区事故危険マップ!!

応募者のコメント

ここは宮城県庁や市役所、沢山の小中学校があり、仙台駅にもつながる仙台市でも特に交通量の多い場所です。僕はこの場所を通って学校へ登校しているのですが、1・2年生が横断歩道を走ってわたるのを何度もみかけ危ないと思っていました。だからこの事故危険マップを作って下級生に見せたいと思ったのがきっかけです。赤は危険、黄色は注意したい、青や緑は比較的安全な場所だと考え、目で見て分かるようなマップにしました。

講評

道路ですれ違う人の数を犯罪からの安全性の指標と考え、目的をもって独自の視点で調査を行うという発想がとても良い。目的、結果、まとめという構成で上手に纏め、危険度を信号の色で表現している表現の工夫も良い。

入選

4・6年生・徳島県阿南市

ここは危ないけん はよ逃げるじょ!! 見能林避難時間マップ



応募者のコメント

学校で防災の授業を受けたとき、海の近くにある私たちの地域は安全なのかと心配になったので、避難場所までの時間や危険な場所を実際に歩いて調査しました。そして避難時間をグーグルマップと比較したり、GISを使って地図上に調査結果を重ねて表示したりしました。地図や表から、グーグルが予測している時間と実際にかかる時間にはズレがあることや、赤や紫で塗られた地域の住民には素早い避難が必要となることがわかりました。

講評

津波があった際の避難時間について、地図上で得られる避難時間の情報と実測を比較した独自の視点がとても良い。道路を太くし、配色と合わせてわかりやすく示したことで、ポスターのように見やすく目を引くとても効果的な地図になっている。

入選

4年生・茨城県牛久市

新地町の防災安全マップ



応募者のコメント

私たちがよく遊びに行く茨城県牛久市にある新地町の防災マップを作ったきっかけは、地形が自然や川に囲まれていて、たくさん雨が降った時にどうなるんだろうと考えたからです。町の人の話から土砂崩れしやすい場所の他、アライグマなど動物による被害、危険な曲がり角など聞き取りました。お年寄りが多く住むので見やすく、また遊びにくる子供たちが手で触ったり楽しめるような、しかけのあるマップを考えました。

講評

危険要素の抽出がオリジナルで、様々な危険情報を重ねた安心安全マップ。地域でのインタビューなども良い。特にクイズがあり、引き出す情報が出てくる仕掛けで情報を加えたことで、マップに対する関心を持ってもらう工夫がとても良い。

入選

3年生・東京都新宿区

だれでもなりうるよ! 松葉杖でおでかけマップ～雨あがりへん～



応募者のコメント

ぼくは、夏休みに入ってから右足首を骨折して、ギプスをつけて松葉杖をつくようになりました。松葉杖で外を歩くと、今まで気が付かなかった危険があることが分かり、他の人も同じような思いにならないようにこのマップを作ろうと思いました。だれでも松葉杖になりうるからです。また、この世界には15%も障がいを持っている人達がいます。皆が、障がいをもつ人達がいるのが当たり前と思うようになるのが大事だと思います。

講評

タイトルにも示されている通り、誰でも起こりうるという発想で、自身の松葉杖を使用する間を活かして調査している点がとてもユニーク。松葉杖で歩き、実体験をもとに、避難が困難な人の視点で見つけた松葉杖の移動の安全や困難な点がうまくまとまっている。

佳作

4年生・京都府京都市

桂小学校安全マップ



応募者のコメント

私たちは、まず身近な安全や防災の状況を把握しようと、通っている小学校の通学路を中心に、グループで協力してマップを作成しました。気を付けなければならない場所、登下校時に見守って下さっている方々、災害時知っておくべき施設など安全に関するものを、絵やマーク、英語を用いて表しました。私たちが日々安心して登下校できている背景には、地域の方々・先生方・警察官など皆さんの支えがあることを、改めて実感しました。

講評

比較的良好な学区内の安心安全マップだが、日本語に加えて英語が併記され、英語で情報発信した意欲が評価された。切り貼りなど、丁寧な絵作りが感じられる作品。

佳作

4年生・京都府向日市

校区内の防犯カメラについて



応募者のコメント

最近、僕の校区内では防犯カメラをよく見かけます。気になったのでカメラの場所を予想して地図に青シールをはり、実際に探して行きそのカメラが映っている位置の写真を撮って地図に赤シールをはり、予想した場所との違いを調べました。市役所の人によると、防犯カメラは平成28年度から昨年度まで合計174台あり、予想していた交差点の他、人通りの少ない所、工事現場、線路近くにもあり、校区内はしっかり守られていると感じました。

講評

防犯カメラの設置について、自分で予想してみた設置場所と実態を比較してみるという発想がとてもユニーク。防犯カメラの調査は少なく、それらの位置も公開されていないので、調査の価値は高いので、地図をより丁寧に纏めるとなお良かった。

佳作

3・6年生・宮城県仙台市

ぼくたちの町内の坂道ハザードMAP!!



応募者のコメント

仙台市にはたくさんの小学校がありますが、市内でもひと際高低差が多く坂道が多いのが現在通学中の小学校です。自転車では坂道の頂上まで登れなかったり、冬には車が止まらなかったり危険な斜面も多いです。そこで、子ども達の通学エリアでどこに気を付けるべきか具体的な傾斜を測り地図にすることで視覚的に危険エリアを周知することができるのではと考えました。子ども達が自作した道具の説明なども交えながら作成しました。

講評

身近な危険として、坂道の斜面の角度に着目し、失敗しながらも、坂道を自作の計測器ではかり、その過程ごとマップに纏めている点がとてもユニークな作品。調査方法の工夫が読み取れて良かったが、角度=危険とせず、見直し等、もう一步、多面的な視点があるとなお良かったかもしれない。

佳作

3年生・広島県広島市

とう下校 安心安全MAP ~広島県広島市の三ささ大しば地区~



応募者のコメント

私は電車と徒歩で通学をしています。昨年の夏、集中豪雨によって電車が止まり、自宅の前がびしょ濡れになりました。登下校の時に何が起きても大丈夫なように地域の事を調べました。自宅のまわりは低い土地で水がたまりやすく、災害がおこった時はひなんせつや高い所ににげる事が大切だと思いました。また登下校時に気をつけなければならない事を考えるきっかけになりました。

講評

問から始まり、調査、発見、まとめのストーリー展開がしっかりしていてとても分かりやすい。目的を持って調べた3つの異なるリスクを一枚の地図に表現している。不審者情報センターなど、多様な視点も良い。

佳作

3年生・京都府向日市

四向小通学路キケンマップ ~すごろくをしながら、あがないことがあったら逃げられる!こども110番のいえの場所を確認しよう。~



応募者のコメント

この地図は、校区内の危険な場所と安全安心な場所の両方を示すために作りました。そして、地図上の「こども110番のいえ」をマス目にして、出た目に従ってコマを進めて、ゴールの小学校に着いたら上がりという「すごろく」の遊びも盛り込みました。「すごろく」で遊びながら安全な場所も理解できていざというときに逃げられると思ったからです。放課後の行動範囲が広がってきたので、この地図を役立てたいと思います。

講評

安心安全マップを双六にまとめることで、子ども110番の位置を遊びながら学ぼうとするアイデアがとても素晴らしい。一目で分かるサイコロなど表現も面白い。マップをもう少し大きくし、綺麗に仕上げるとなお良かった。